

平成 22 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

生体肝移植を受けるレシピエントとそのドナーに関わる看護師の思い

学位の種類： 修士 (看護学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 09894603

氏名：金嶋 祐加

(指導教員名： 志自岐 康子)

目的：本研究は、生体肝移植件数が少なく、クリニカル移植コーディネーター (Clinical Transplant Coordinator、以下 CTC) がいない施設で、一般の消化器外科病棟で生体肝移植患者のケアを行っている施設に焦点を当て、看護師が生体肝移植を受けるレシピエントとそのドナーに関わる中で、どのような思いを抱えているのかを明らかにすることを目的とした。

方法：移植件数が少なく、CTC のいない一般の消化器外科病棟で生体肝移植患者のケアを行っている 2 箇所の大学病院を対象施設とした。研究参加者は、レシピエントを受け持ちそのドナーと関わった経験のある看護師で、臨床経験 5 年以上で消化器外科病棟での経験年数が 3 年以上の看護師 5 名であった。半構成的面接法によって得られたデータから逐語録を作成し、質的帰納的に分析した。

結果：分析の結果、53 のコードから 7 つのサブカテゴリーが得られ、【侵襲を与える医療でもある移植】、【権利を守ることへの葛藤】、【内面に触れることへの恐れ】、【専門性の芽生え】という 4 つのカテゴリーが抽出された。【侵襲を与える医療でもある移植】は [ドナーは命がけて肝臓を渡す] というサブカテゴリーから構成され、術後の合併症に苦しむドナーや、移植を重く受け止めていないレシピエントと関わる中で生じた思いであった。【権利を守ることへの葛藤】はドナーの [自由意思が脅かされている可能性がある]、[移植を止められない] という 2 つのサブカテゴリーから構成された。【内面に触れることへの恐れ】はドナーやレシピエントの [固まった意思を揺るがせたくない]、[移植への思いに深く踏み込めない] という 2 つのサブカテゴリーから構成された。【専門性の芽生え】は、[専門性が育ちにくい]、[CTC 的な役割を担う看護師に丸投げしている] というサブカテゴリーから構成された。

考察：CTC のいない移植施設で移植医療に携わる看護師は、移植看護に専門性が必要であるという【専門性向上の芽生え】という思いを抱えていることが明らかになり、CTC の役割を十分確保し、意思決定支援を含めた専門性の高いケアを提供することが看護師の役割として必要であることが示唆された。